

# 幹線道路に隣接する 細街路の都市計画上の課題 —「歴史細街路」の維持保全に向けて—

## 調査・研究概要

### 「京都の魅力的な細街路を守るために」

京都のまちなかには、魅力的な路地がたくさんあります。細い道に沿って町家が軒を連ねて建ち並ぶ様子は、独特の魅力ある景観として、多くの人々を引きつけています。京都だけでなく、ヨーロッパの古いまちや、アジアの活気ある町など、魅力的な都市に路地はつきものではないでしょうか。

しかし細街路は、将来的には拡幅などによって無くしていくよう、法的に位置づけられています。ここで言う細街路とは、幅が4mに満たない道のことです。建築基準法では、建築物の敷地は幅が4m以上の道に接していなければならないと定められています。それにより、細街路沿いの敷地で建物を建てる場合は、敷地後退をするかもしくは建てること自体ができない状態にあります。最新の調査では、京都市の都市計画区域内には約13,000カ所の細街路が存在し、その総延長は約940kmにもものぼると発表されています。

今回の研究では特に「田の字地区」と呼ばれる市内中心部の幹線道路沿いの細街路に着目しています。広い道から一歩入り突然狭い路地に出会う時、歴史都市京都の奥深さを感じることができると思います。一方で、幹線道路沿いは都市計画によって容積率と高さの制限が高く設定されており、その地区内に位置する細街路は、非常に不安定な状況におかれています。そこで、都心の幹線道路沿いの細街路の実態を明らかにし、都市計画上の課題を整理して、今後の施策を検討することを目的としています。

## 調査・研究の進捗

### 「やっぱり魅力的な細街路」

設定した対象地区（田の字地区の幹線道路と職住共存地区に挟まれた地区）内に位置する幅員4m未満の道を抽出しました。夏休み期間中に研究室の大学院生の協力を得て、該当箇所すべてに対して現地踏査を行い、現存するかどうかの確認と写真撮影、および現状の簡単な記録を行いました。その結果について、定量的なデータとして分析を進めるとともに、幹線道路沿いならではの課題についての検討を行っています。



# 研究だより

平成二十五年度 未来の京都創造研究事業

## 第3号

本事業は、大学の若手研究者等と京都市の担当部署が協力しあって調査・研究を進めることで、京都市の政策や事業に生かすことのできる、より実践的な研究成果の獲得を目指して公益財団法人大学コンソーシアム京都と京都市が共同で行っている事業です。

今回の研究だよりは自由課題「幹線道路に隣接する細街路の都市計画上の課題」、『歴史細街路』の維持保全に向けて、「」に取り組んでおられる研究テーマについて内容を報告します。

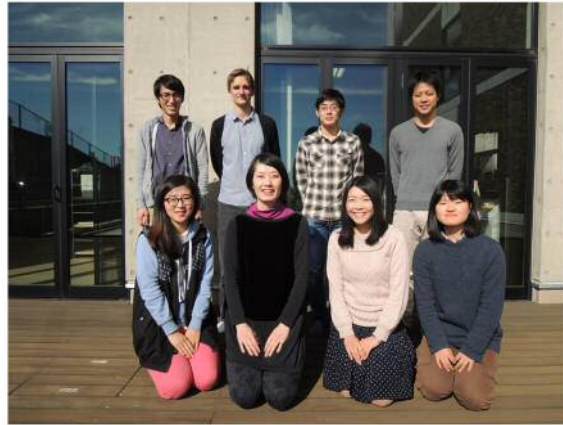
**今後の抱負****「具体的な提案を！」**

まず、田の字地区内の細街路の現状を調査結果から基礎的なデータとして示したいと思っています。また今回のテーマである幹線道路沿いの細街路特有の課題について整理を行います。それらをもとに、まちなかの細街路の将来を考えながら、具体的な施策を提案したいと考えています。

**研究者のプロフィール**

**森重幸子** 京都大学工学研究科建築学専攻居住空間学講座（高田研究室）研究員

もともと住宅が好きで、建築の道に進みました。住宅の設計ができるようになるために、しばらく実務を経験した後、改めてもう少し勉強したいと思い大学に戻りました。住宅への興味がまちへと広がり、また新しいものから古いものへと興味が広がって、町家や路地の研究を続けています。京都のまちは興味が尽きない研究対象です。



研究代表者である森重さん（下段左から2人目）と、共に現地調査を実施した大学院生たち

**中間報告会を実施しました**

本年度に新たに取り組んでいる4件の調査・研究テーマの中間報告会を11月8日にキャンパスプラザ京都で行いました。各テーマの進捗報告と本事業の運営委員から調査・研究に対する助言をいただくことを目的としています。

当日は、各研究代表者からの報告後、活発な質疑応答が展開されました。参加した研究代表者にとっては今後の研究を進めていく上で大変有意義な中間報告会となりました。

\*\*\*      \*\*\*      \*\*\*      \*\*\*      \*\*\*      \*\*\*

来年3月には市民の皆様にも公開のもと最終成果報告会を開催します。

日程等が決まりましたら、この研究だよりを通じてお知らせします。

多くの方のご参加をお待ちしております。

**編集後記****身近な「みち」と「まち」を考えてみよう**

秋が深まって参りました。細街路の現地調査写真は夏の装いですが・・・。

夏の炎天下に流した汗の量が多いほど、豊かな実りの秋を迎えることとなるでしょう。

京都のまちの魅力の一端を解明するための調査です。「大手を振って歩く」には狭い道ですが、味わいのある道でもあります。

普段なにげなく歩いている道で、足元を見つめてみるきっかけになりましたか？

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 高等教育研究推進事業部 シンクタンク事業 水田、鳴海  
E-mail : [mirainokyoto@consortium.or.jp](mailto:mirainokyoto@consortium.or.jp) Tel : 075-708-5803 Fax : 075-353-9101